学校番号	３００４

令和２年度　工業科（工学系）

教科	工業	科目	情報技術基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「情報技術基礎」　（実教出版）						
副教材等	新「情報」活用テキスト（ICT ﾌﾟﾛﾌｨｼｴﾝｼｰ検定協会）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代社会では,スマートフォン等の普及に伴い,ＳＮＳや情報が氾濫しており,多くの情報の中から,真偽を見極めることが要求されています。また,情報を道具として利用する力を必要とし,今後ますます,情報リテラシーを身に付けることが求められます。情報処理分野の基礎を学び,論理回路や基本的なプログラミング作成などの知識や作成方法を身に付け「情報技術検定３級」合格レベルの知識と技量の習得をめざします。

2 学習の到達目標

１．情報技術に関する基礎的な知識と技術,モラルを習得する。
２．ｺﾝﾋﾟｭｰﾀを道具として使いこなす技術を習得する。
３．全国工業高等学校長協会主催　情報技術検定３級レベルの知識と技術の習得をめざす。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.技能	d.知識・理解
観点の趣旨	情報技術に関する基礎的な知識と技術に関心をもち,意欲的に取り組むとともに,実際に活用しようとする態度を身に付けている。	諸問題の解決をめざして自ら思考を深め,情報技術を活用して情報を処理・表現することができる。	情報技術に関する基礎的な知識と技術を理解し活用する技能を身に付けている。また,アルゴリズムやＣ言語の基礎を身に付けている。	情報技術に関する基礎的な知識をもっている。
評価方法	・情報分野について関心があるか。 ・ファイル等の配布資料を整理し提出しているか。 ・タイピングなどのパソコン操作を積極的に練習しているか。	・文章を読み取り,論理的に事象をまとめることが出来るか。 ・アルゴリズムが理解出来るか。 ・事象を流れ図化できるか。	・C 言語プログラムを流れ図から組み立てられるか。 ・パソコンを使ってタイピングやパワーポイントなどのソフトウェアを使いこなせるか。	・情報一般の用語を習得できたか。 ・ディジタル回路や論理回路の動作等を理解できたか。 ・ネットワークや５大装置のしくみを理解できたか。

上に示す観点に基づいて,学習のまとまりごとに評価し,学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて,それぞれの観点を適切に配分し,評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	情報技術基礎の概要	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの歴史,ネットワーク,知的財産権,ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの5大装置などの情報に関する用語,法的,技術的な観点で,自分と他人の権利を守ることやモラルの重要性を理解させる。	○	○	○		a：情報モラルや知的財産権などの用語について、一つひとつ理解しようと取り組んでいるか。 b：コンピュータによる情報発信の特徴を理解している。 c：コンピュータの発達に伴う社会の変化を理解している。	小テストの結果,授業態度,出欠状況,課題プリントの提出
1	ハードウエア	基本論理回路の組合せ 基数変換(2,10,16進数) 論理回路の基礎	○	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	a：いろいろなﾃﾞｰﾀの表し方を理解している。 b：論理回路を描くことが出来る。 c：論理式を理解し書ける。 d：時間と共に状態が変化するタイムチャートや真理値表に結果を記入することができる。	小テストの結果,授業態度,出欠状況,課題プリントの提出
2	フローチャート	流れ図の記号 トレース いろいろな流れ図 順次・選択・繰返処理	○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a：直線的な処理, 判断と繰り返し処理などの基礎処理を理解しようとしている。 b：順次・選択・繰返し処理の各種処理を理解し, 流れ図に反映できている。 c：アルゴリズムに基づいた流れ図を描くことができる。 d： 処理内容に適した流れ図記号を適切に選択ができる。	小テストの結果,授業態度,出欠状況,課題プリントの提出
2・3	C言語	プログラム言語(c) 形式とその使い方 各種命令 (printf,scanf,if,for,while)	○	○			a：ﾌﾛｰﾁｬｰﾄの図記号とプログラミング言語の関連を理解しようとしている。 b：流れ図で表現されている各演算をC言語コマンドに置き換えることができる。	小テストの結果,授業態度,出欠状況,課題プリントの提出
3	ソフトウエア	パワーポイントによる表・グラフ・アニメーションの作成 発表資料作成と発表 (自由課題)	○	○	○		a ：基本的な操作ができる。 b ：アニメーションを理解し、効果的な資料となっている。 c：表やグラフなどを作成できる。	小テストの結果,授業態度,出欠状況,課題プリントの提出

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現

c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが,学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。